



イヌワシ新聞

～生物多様性と環境保全のために～

社団法人東北地域環境計画研究会

岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子152-137

TEL019-601-2377 FAX019-601-2395

MAIL : mail@tokanken.jp

No.1

URL : www.tokanken.jp/

2010.4.1

イヌワシ間伐 始まる



営巣地直下の岩場にある伐採前のミズナラ。直径は1メートル近い。この上の2ヶ所に巣がある。



イヌワシは毎年11月頃から巣材を運ぶため、その前に支障木を除去することになった。



足場が悪くロープで固定して宙ぶりのチェーンソー伐採作業。



ツルが絡まる小径木も多い。伐採前にすべて除去して安全を確保する。

写真：伐採作業の様子。特別保護地区のため行政職員の立会のもとで行われました。

イヌワシ営巣地付近の樹木が繁茂しすぎて巣が利用出来ない場所が見つかったため、東北環境研では、去る平成21年10月21日に支障となっていたミズナラなどの樹木約20本の伐採を行いました。イヌワシ基金適用第1号です。

営巣地の支障木を伐採

盛岡市

川井村 国有林間伐

動物の隠れ家づくりに挑戦

平成22年度からは、盛岡市に場所を変えて行われる予定です。



等高線方向列状間伐



ノウサギの利用を期待した隠れ家づくり



閉伊川流域と呼ばれる岩手県川井村鈴久名地内（国道109号鈴久名から北上山地大規模林道を南に約8キロ地点）の横倉沢国有林198林班で去る平成21年9月12日、8年齢カラマツ人工林の列状間伐が行われました。8列残して4列伐採する4伐8残を繰り返して143本を間伐しました。列状に間伐して広葉樹の混ざる針広混合林に誘導することや、水源域の保全、生物多様性の森林づくりを目的とした間伐活動です。間伐して玉切りした木を積み上げて、ノウサギなどの小動物が利用する隠れ家を作りました。

三陸北部森林管理署と当会の共同作業



イヌワシ基金は自然環境保護のための基金として、絶滅の危機にある天然記念物イヌワシが生息する環境の保全を目的に2009年4月に創設されました。



イヌワシ 撮影前田琢氏

生物多様性 共存と循環のしくみ



食物連鎖と呼ばれているのは生命の連鎖です。「食」を通じて命を循環させていると考えられます。

共存のしくみ

種が違えば食物やすみかに違いがあり、むやみに争うことはありません。生物の種の多くは他の生物の食物になりますが、その生物に必要な食物やすみかの量が確保できなくなると共存ができなくなります。その結果その種に必要な食物や、すみかの量に見合った数だけの子孫が残っていくことになります。

循環のしくみ

植物は太陽光線により光合成を行い、水や二酸化炭素などから有機物を作る生産者です。その有機物を食べるすべての動物は消費者になります。生産者と消費者の死骸や排泄物は、再び分解者（微生物）の働きで、生産者・消費者の生産活動に結びつくことによって循環しているといえます。 左イラスト：(財)日本野鳥の会 野鳥かみしばいより抜粋

イヌワシは日本に650羽が生息しそのうち東北地方には約207羽生息していると推定されています。イヌワシが安定した生息数を維持するための繁殖成功率は28.2%以上必要と考えられていますが、東北地方では12.9%まで低下しており危機的状況にあります。イヌワシはアンブレラ種であるためイヌワシを保護することは傘下にいる生物を同時に保護することにもなります。

原因と対策



イヌワシの生息数・繁殖成功率低下の原因として考えられるのは、環境ホルモンや農薬等の合成化学物質、地球温暖化、餌狩場の変化などです。中でも、特に餌狩場である森林環境の変化が大きな影響を及ぼしていると考えられています。

たくさんの動物が生息できるよう里山を適正に管理すれば、イヌワシの生息に大きな貢献をすることができます。

放置され手入れがされずに暗く閉鎖した人工林の環境を、一刻も早く変えることが大切です。イヌワシの生息環境を維持するために、営巣環境の保全や餌場の確保など、生物多様性に配慮した森林の整備が求められています。

イヌワシ基金の役割



イヌワシの餌資源と餌狩場の確保のため

- ・ 人工林の列状間伐
- ・ 巣の補修
- ・ 人工巣の設置
- ・ 植樹と動物の隠れ家づくり
- ・ 生息調査・研究

